

(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は持ち直しの動きが続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は持ち直しの動きが緩やかになっており、依然として厳しい。

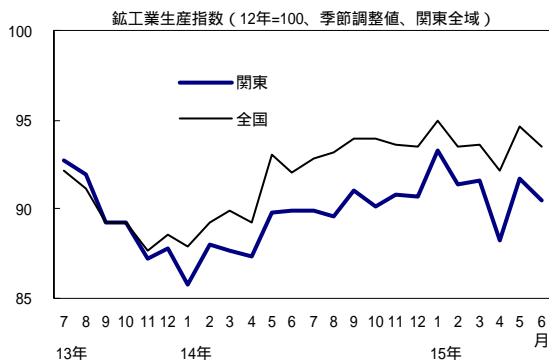
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 15 年 5 月)	今回 (平成 15 年 8 月)	
鉱工業生産	緩やかに増加	おおむね横ばい	
住宅建設	緩やかに減少	おおむね横ばい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。(関東全域)

一般機械は、4月に携帯電話の新機種投入に向けた切り替え時期で携帯電話向けの半導体製造装置が減少したことが影響し、前期比で再び減少に転じた。化学は、内需ではポリスチレン等の値上げに伴う駆け込み需要の反動減、外需ではSARSの影響により中国向けの輸出の減少や生産調整の動きがみられ、減少に転じた。輸送機械は、トラックが排ガス規制による買い替え需要で好調だったものの、乗用車が内需ではグリーン税制の駆け込み需要の反動減、国内新車効果の一巡、外需では北米向け輸出の減速を受け、2期連続での減少となった。情報通信機械は、4月に携帯電話の新機種投入に向けた切り替え時期で携帯電話向けの部品が減少したことが影響し、前期比でやや減少した。電気機械は、蓄電池などスポット的な受注生産が前期と比べると減少した。



(備考) 平成 15 年 6 月の関東は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

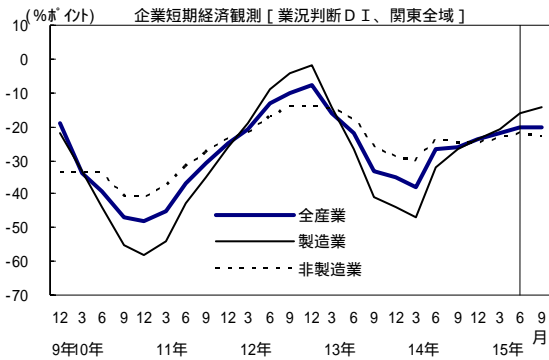
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
一般機械	13.8	3.5	3.1	1.0	4.4
化学	13.7	4.5	3.2	2.6	2.9
輸送機械	11.3	1.5	4.6	1.8	19.0
情報通信機械	8.6	7.0	1.8	2.3	4.0
電気機械	7.9	1.4	2.2	3.1	5.7
鉱工業	100.0	1.7	2.1	1.2	2.2

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

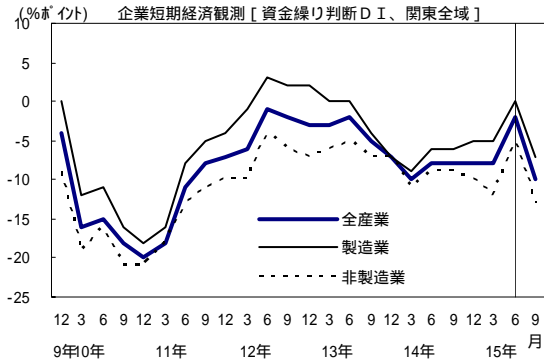
2. 4~6月期は速報値。

3. 4~6月期の化学の生産、出荷については、4月、5月
確報値の平均より算出。在庫については、5月確報値。

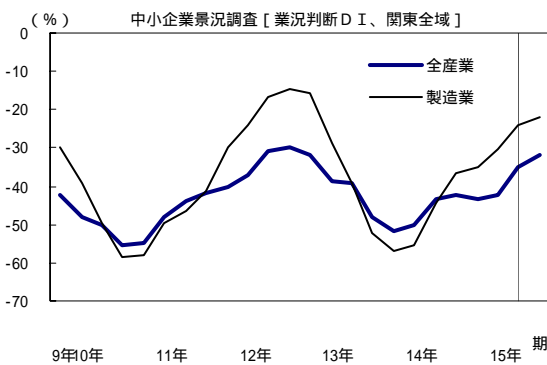
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年9月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年9月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「製造業では精密機械、自動車部品が好調であり、明るい兆しが出ている。一方、土木、建設関係は公共工事の減少などで廃業する業者が出るなど、厳しい状況が続いている(金融業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

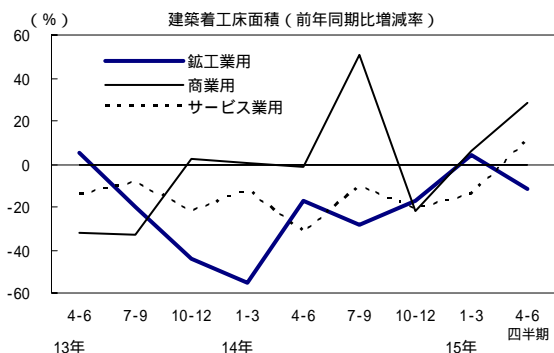
(3) 設備投資の15年度計画は前年度実績とほぼ同水準になっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査、関東全域)]

(前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績	15年度計画
全産業	3.3(1.8)	1.8(0.4)
製造業	13.9(1.7)	4.0(1.5)
非製造業	2.1(2.2)	2.4(0.3)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。



(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

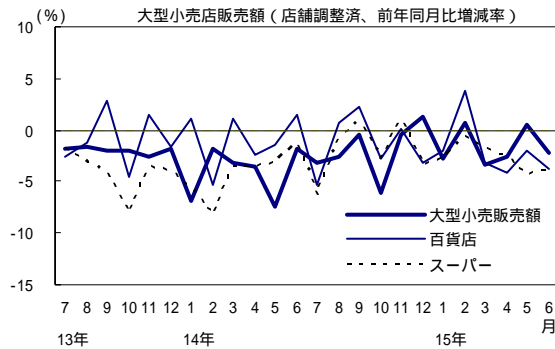
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、4月は、気温が低く推移したことや週末の降雨等天候不順により衣料品、飲食料品の動きが鈍くなった。5月は、中旬以降の天候不順があったものの、衣料品など一般的に前月よりもやや持ち直した。6月は、再び衣料品、飲食料品が落ち込み、全体としても低調に推移した。

スーパーは、衣料品が6月には動きがみられたが、好調だった主力の飲食料品が4月は発泡酒の増税前の駆け込み需要で前年を上回ったものの、5月以降はその反動と天候不順などにより前年を下回った。

景気ウォッチャー調査（7月調査）[家計動向関連D I（現状判断）]

「この2～3か月、店頭販売はかなり伸びている。7月の売上は中元を含め、対前年比105%と好調であるが、外商が対前年比80%と不振であり、総じて変わらない（百貨店）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

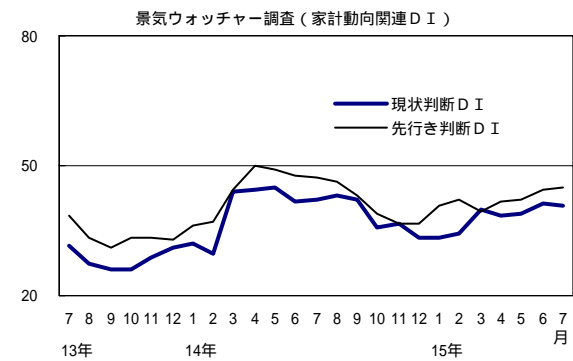
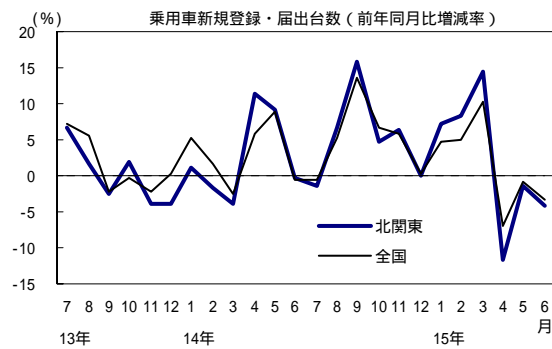


(前年同期比増減率、単位：%)

	14年7-9月	10-12月	15年1-3月	4-6月
大型小売店	2.0	1.9	1.5	3.5
百貨店	1.2	2.0	0.8	3.4
スーパー	2.3	1.8	1.8	3.6
乗用車	6.8	3.7	10.9	5.7
景気ウォッチャー	42.4	35.3	35.9	39.6

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。15年4-6月は速報値。

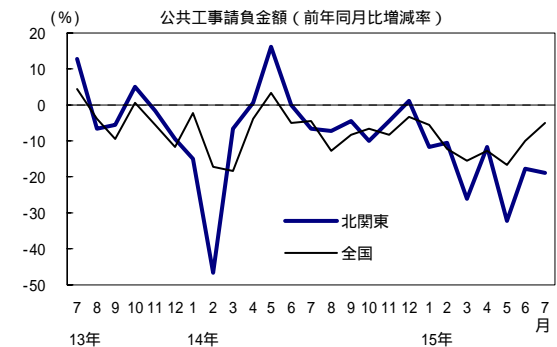
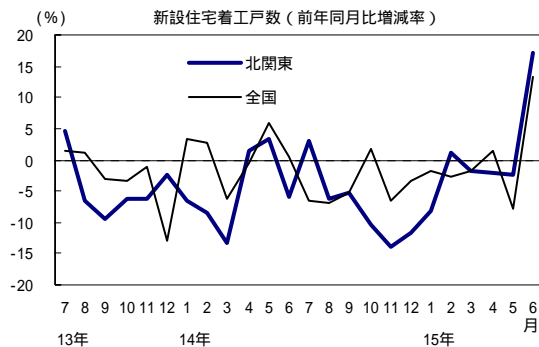
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

貸家が前年を下回ったものの、持家、分譲が前年を上回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

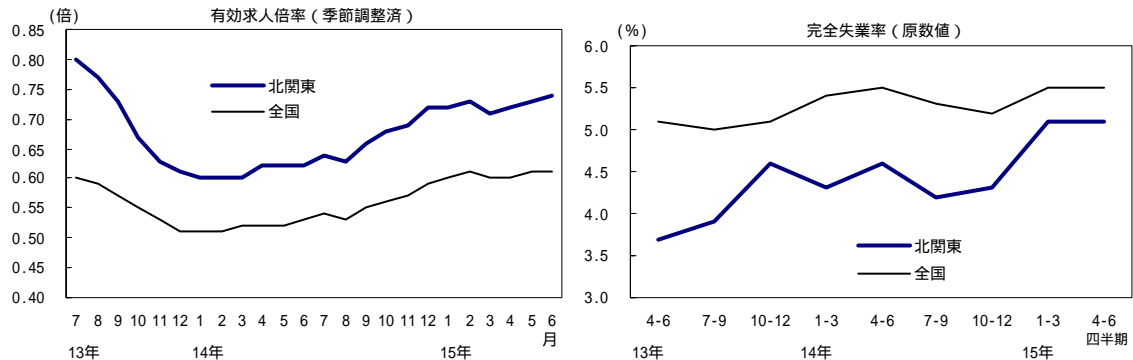


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は持ち直しの動きが緩やかになっており、依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はこのところ上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月調査)[雇用関連 (現状判断)]

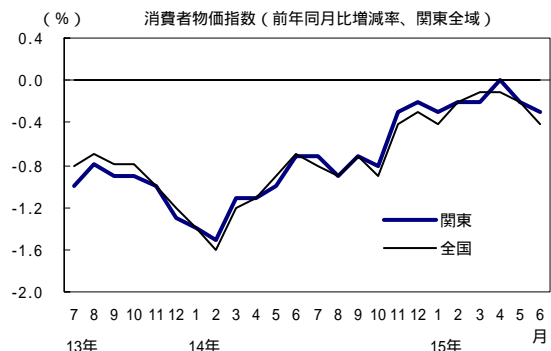
「製造業はデジタルカメラ、液晶関係で上向いてきたものの、正社員採用にはまだ踏み切れていない。求人が増加しているのは、固定費の少ない30歳までの開発系であり、中高年は依然として厳しい(民間職業紹介機関)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数はおおむね横ばい、負債総額が増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年7-9月	10-12月	15年1-3月	4-6月	15年7月
倒産件数	246	238	231	254	66
(前年比)	1.7	20.4	8.7	2.0	20.5
負債総額	1,053	1,402	775	2,178	495
(前年比)	23.7	25.6	60.8	83.8	46.5



景気ウォッチャー調査 (7月調査)[合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・5月以降、自動車のフルモデルチェンジがあり、好調であることから、3か月前と比べて売上が20~25%増加している(輸送用機械器具製造業)

<先行き>

- ・秋にショッピングモールがオープンすれば、かなり人の動きが出てくる。業種によっては周辺に店ができるなどして、良くなるかもしれないが、当面は変わらない(求人情報誌製作会社)

